



# 博物館友の会だより

題字：千葉半厩

## 文化振興ニュース

### 新幹線開業に向け山車会館リニューアルすすむ&吉継カフェ



みなとつるが山車会館建物側面に新設置の大型看板

博物館に隣接する「みなとつるが山車会館」では、来たる北陸新幹線福井延伸に向け、老朽化した施設の改修や、集客に向けてのコンテンツの充実、山車の魅力を伝えるための展示の基礎となる調査研究事業を進めています。

令和三年度にはフォトスポットの設置や、お客様をお迎えする人形の衣装の取替、山車が保存されている倉庫床面の塗り直しなどを済まし、今年度は建物の側面に看板を設置したり、子供達に配布する山車のペーパークラフトを作成したり、展示機能を高めるための本格的な博物館仕様の展示ケースの導入を行いました。そして山車には欠かせない甲冑の本格的調査を、高早恵美学芸員・奥本律子学芸員が中心となり進めています。



山車のペーパークラフトは全6基。結構精巧です。



今年度も開催した吉継カフェの様子。

令和五年度はいよいよ新幹線延伸にむけ、博物館・山車会館共々、内外のお客様に敦賀の歴史文化に親しんでもらえるような様々な展示、コンテンツの設置を進めていきます。皆様、博物館はもちろんなみなとつるが山車会館にも足を運んでみてくださいますようお願いいたします。

令和五年一月二十一日（土曜日）、きらめきみなと館小ホールで、第二〇回吉継カフェが奈良大 学教授・外岡慎一郎先生を講師に迎えて開催されました。もうこの講座は二〇回を数えますが、まだまだ吉継に関する歴史的話題は尽きません。当日は約九〇名のお客様が聴講されました。

## 房州酒井氏の海防について

友の会会長 川村 俊彦

昨秋の令和4年度特別展「敦賀藩物語」は、  
 鞠山（敦賀）藩の歴史を具体的かつ体系的に  
 理解する上で有意義な企画であった。

筆者は、中でも幕末に近江国高嶋郡の  
 「薄斂はくれんの地」七カ村から安房国朝夷郡安馬谷あまぼ  
 村外二カ村へ、三千石の領地替えがあったこ  
 とに興味を持った。七代藩主忠毗あまひの幕閣での  
 功績と江戸近海の海防がその理由だという。  
 異国船の江戸湾内海への侵入に備え、弘化四  
 年（一八四七）、幕府は彦根藩、会津藩に沿  
 岸警備を命じ、その後、有力大名が相次いで  
 相・房・総の三州でその任についたが、その  
 ことと関連した措置であろうか。

さて、表題の房州酒井氏とは、勝山（加知  
 山）藩のことである。安房勝山は対岸に三浦  
 半島を望む浦賀水道に面し、外房の朝夷郡と  
 は腹背の位置にある。勝山と安馬谷の間、僅  
 か二〇キロに満たないが、両藩に安房国内で  
 の連繫があったわけではなさそうだ。

それでは、江戸湾口に臨む勝山陣屋の動静  
 は如何なる様子だったのだろうか。

『鋤南町史』（一九八三）によれば、

○嘉永六年六月四日安房国勝山領主酒井安芸  
 守忠一屆老中へ

異国船渡来の件

一、私領分、安房国平郡勝山より漁獵に罷  
 出候者、昨三日未之中刻頃、相州三崎沖に、  
 異国船凡そ三千石積位之舟四艘、帆柱三本  
 づつ立有之候舟相見候趣、追々注進申候に  
 付、見分之者差出候処、相違無御座、南風  
 故にや、右四艘共相州浦賀表へ乗入候趣、  
 家来共罷歸り申聞候。依之近領之面々へも  
 早速申通、勝山浜手へ壱番手固人数差出置  
 申候。尚又此上時宜次第、今明日中追々固  
 人数出張為致可申旨、在所家来共より急便  
 を以申越候。先は此段御届申上候以上。

六月四日

酒井安芸守

嘉永六年（一八五三）、八代藩主忠一ただかずが、  
 ペリーの黒船来航を注進した、リアルタイム  
 の報告書である。旗艦サスケハナ号以下四隻  
 で浦賀まで来航したペリーは、久里浜で米大  
 統領の国書を幕府に渡し、回答を翌年に延期  
 することを認め、琉球へと去る。

○六月十三日大目付へ警固人数引払の件

去る四日より追々御届申達候異国船四艘  
 帰帆之趣二付、昨十二日暁より遠見番之者  
 差出置候処、辰刻過相州観音崎沖より外海  
 之方へ向走候旨：（略）：巳刻頃勝山遠沖  
 通船仕、相州城ヶ島沖より、巳下刻頃房州  
 洲之崎夫より豆州大島辺へ走り、追々船影  
 相見え不申候二付、暫見合、午刻過浜手警  
 衛一番手人数計相揃置、其外は陣屋内へ引  
 取、申下刻弥退帆之様子二付、固人数不残  
 引取申候：（略）

緊迫感が伝わってくるような文書である。

翌年一月、ポーハタン号以下七隻でペリーが  
 再来、勝山藩からの注進は三月まで続いた。

風雲急を告げる情勢の中、安芸守忠一は、  
 万延元年（一八六〇）、三八歳で卒す。

九代忠美ちゅうびのときには蝦夷開拓に着手した  
 が、明治四年の廢藩により一切の経営資源を  
 函館府知事に引き継ぎ、終焉を迎える。

今回、「敦賀藩物語」を契機に勝山藩の海  
 防の一端を垣間見た。いずれ、この藩の「物語」  
 も繙く機会を得たいものである。



## 博物館のついでに・・・

今回、みなとつるが山車会館において、甲冑調査を実施した東京国立博物館名誉館員の池田宏先生によると、祭りの屋台に載せる造形物は、載せる人形にあわせて作られた、あえてたとえるなら模造品のものが一般的である中、敦賀の山車の甲冑は、実際に人が着用できる本格的なものが使用されており、さらに武家が好む黒や紺ではなく、赤や萌黄の威や金色の札など、見られることを意識した華美なものが多い。とのこと。

幕末に氣比神宮の神宮・石塚資元が著わした敦賀の地誌『敦賀志』に、「武具馬具等何れも真の物を用ふ」そして山車は「其麗はしき事たぐひ稀也」と書かれていることが、今回改めて実証されたと言えます。この調査結果は、祭りの賑わいに心を砕いた敦賀商人の心意気の歴史を示すものです。これらは報告書にまとめられております。



博物館3階にも新しい展示ケースが導入され。只今ジャクエツコレクションが展示されています。



調査の一環である甲冑の撮影風景。

博物館研究紀要では、氣比神宮で再発見された屏風の調査報告も出ます。新たな歴史の再発見が新年度も続きます。皆様も、我らが友の会事務局長の様に、自由に歴史の発見や解釈をしたり、美しいものを観賞したりして、今年も博物館でお楽しみください。

## 事務局長の期待のついでに・・・

ワテルロー、ゲティスバーグと連携し【世界三大古戦場】の魅力を発信している関ヶ原には、関ヶ原の戦いを五感で体験できる施設、岐阜関ヶ原古戦場記念館があります。記念館内では世界でも類を見ない規模で行われた一大合戦のストーリー映像を体験できるのですが、言

### 関ヶ原古戦場記念館



わずもがなこのストーリーの主人公のうちの一人が敦賀の大谷吉継でして、大衆を魅了する吉継の資質が存分に発揮すれば、益々、吉継ファンが増えるのではないかと期待されます。

また、敗者に同情を寄せているのか、吉継をはじめ西軍武将ファンの声が大きい関ヶ原界隈ですが、2023年大河ドラマ放送開始後から記念館では大河ドラマで使った衣装や等身パネルを展示したり、徳川家康グッズの販売に力をいれているなどの新風が吹き込み家康ファンになった方も多いのではないかと想像しています。というのも松本潤さん扮する家康が着用している金陀美具足に痺れ、ちよつと捻りを加え白檀塗具足を調達してしまいう人もいますから（私です）。

吉継も家康も敦賀にゆかりのある人物、この2人のファンが関ヶ原古戦場、大河ドラマなどを切っ掛けにでも敦賀を訪ねてくれる事を願っています。



白檀塗具足（レプリカ）

### 博物館友の会だより99号

令和5年3月31日発行  
発行 敦賀市立博物館友の会  
事務局 敦賀市相生町7-8  
TEL 0770-25-7033  
FAX 0770-47-6131  
E-MAIL museum@ton21.ne.jp

### [編集後記]

もう嫌じゃー！どうしたらええんじゃー！と弱音を連発する家康像が目新しい2023年大河ドラマどうする家康はTwitterの世界トレンド1位を獲得するなど反響も大きい様ですね。4月には家康が敵の中で取り残される窮地、金ヶ崎の戦いが放送されるのではないかと期待されていますがさてどうなる？

事務局長

※博物館も若干、ほんの少しだけ、この大河ドラマに協力しています。by 博物館